

## 狂気が西側世界を支配している

【訳者注】これを、安倍首相が米議会で演説して喝采された（らしい）その日に、翻訳紹介することになったのは、偶然とは思えない。P・C・ロバーツは、ここで何度も紹介したように、かつて米政府の中枢にいて、現在は、反ワシントンの闘士ともいえる人である。彼から見ても、米政府や議会から見ても、日本は **vassal country**（従僕国）であって、対等の“パートナー”などではない。これを読む人は、もし自分が米議会で話すとしたら、礼儀の道にはずれることなく、友愛の精神を示しながら、同時に、自分たちはあなた方の「従僕」ではない、悪事に加担するつもりはない、と効果的に言うためには、どう言えばよいのか、という難題を自分に突きつけてみるとよい。これには無限に大きな意味があるだろう。我々は、ここに引用されているプーチンのように、明瞭に言えるだろうか？

アメリカの根底にある **Exceptionalism**（例外主義）とは、自分たちは国際法も自然法も超越しており、暗殺もジェノサイドも、侵略もウソも富の独占も、一切責任を問われることはないと信ずる、超傲慢、超犯罪者の思い込みのことである。

By Paul Craig Roberts

April 28, 2015 (Information Clearing House)

カール・マルクスが、歴史はプロレタリアートを選んだ、と主張したように、ネオコン（ネオコンサーバティブ）は、歴史はアメリカを選んだ、と主張している。ナチスが「ドイチュラント・ユーパー・アレス」（すべての上に立つドイツ）と言ったように、ネオコンは「すべての上に立つアメリカ」を主張している。2013年9月、オバマ大統領は、現実に国連の前に立って「私は、アメリカは例外的（**exceptional**）だと考えている」と宣言した。

ドイツの政治リーダーたち、イギリス、フランス、そしてヨーロッパ各国、カナダ、オーストラリア、そして日本のリーダーたちも、アメリカは例外的だと考えていて、それは自分たちよりアメリカが上ということである。これが、彼らがワシントンの従僕国（**vassals**）たるゆえんである。彼らは自分たちが、この「例外的国家」——アメリカ——に劣ることを受け入れており、そのリーダーシップに従っている。

中国人が、一握りの白人のことを、数のごくわずかということ以外には、例外的だと考えているとは思えない。アジア、アフリカ、そして南米の人口から見れば、ワシントンの帝国を構成している人々の数は比較にならない。

ロシア人もまた、アメリカが例外的だとは考えていない。アメリカの優越性を主張するオバマに対するプーチンの反応は、「神は我々を平等に創った」というものだった。彼は付け加えて言った、「動機が何であろうと、自分たちは例外だと考えるように人々を助長するのは、きわめて危険なことです。」

もしすべての国家が“例外的”だとしたら、その言葉は意味を失う。もしアメリカが例外的だとしたら、他の国々は、そう呼ばれないことによって劣っていることになる。劣った者たちの権利は制限され、彼らは脅されて屈従を強いられ、爆弾によって消し去られる。

「例外的国家」は他のすべての国家の上であり、したがって、それがいかに他国を扱うかに気を配る必要はない。アメリカ人とその従僕国が、明らかにアメリカを例外的と考えているのがわかるのは、21世紀における8か国でのワシントンの戦争によって、何百万という人々が殺され、傷害を負わされ、住処を追われても、それがワシントンを告発する結果にならなかったことである。メルケル、オランダ、キャメロン、そしてカナダ、オーストラリア、および日本の傀儡たちは、いまだにワシントンに追従し、しがみついている。

これに対し、ロシアやイランのような、アメリカとは違って軍事侵略をしない国々は、欧米のメディアにおいては脅威として描かれ、非難されている。

欧米メディアは、ロシアの戦車と正規軍がウクライナに入っていると主張し、2014年2月以来、ずっと主張し続けている。プーチンは、もしそれが本当なら、キエフと西ウクライナは、昨年早々に、ロシアの侵略に屈していただろうと指摘した。キエフは、東部と南部ウクライナの小さな分離派共和国を敗退させることもできなかったのだから、ロシア軍に勝てる見込みはないだろう。

最近、ある勇敢なニュース組織が、ロシアのタンクが、14カ月にわたってウクライナになだれ込んでいるという、欧米メディアの主張を面白くからかった。このパロディは、ウクライナが身動きできなくなっている絵だった。すべての道路と住宅地の通路すべての交通が、ロシアのタンクによって動けなくなっている。すべての駐車場所は、横道も人家の庭も含めて、タンクがタンクに乗り上げている。この国全体がニッチもサッチもいなくなっている。

欧米メディアを信ずる騙されやすい人々をからかって楽しむ、わずかの人々もいるが、状況はそれでもやはり深刻である。それはこの問題が、地球惑星の生命にかかわるからである。

ワシントンとその従僕国が、地球上の生命を気遣っている兆候はほとんどない。最近、ヨー

ヨーロッパ議会の最大の政治グループ「ヨーロッパ人民党」が、地球の生命を何とも思っていないことを私は知った。もしオンライン EU ニュース “Euractive” を信じてよいとすれば、この EU の与党は、核戦争を受け入れる態度を EU が宣言すれば、それはロシアの更なる侵略を防ぐ最上の手段の一つになると考えている。

<http://www.unian.info/politics/1070675-meps-believe-eu-should-be-ready-for-nuclear-war.html> ヨーロッパのハルマゲドン受け入れ宣言によって食い止めるべき侵略とは、ロシアのウクライナ侵略と言われているものであり、“更なる侵略”とは、プーチンのソビエト帝国再建の意図と言われているものである。

EU のリーダーたちが、ワシントンのプロパガンダを疑うくらいなら、むしろ核戦争を支持するとは、ロシア政府にとっては大きな失望に違いない。

ヨーロッパ議会の与党が、核戦争の受け入れ宣言をしてでも、存在しない侵略を食い止めねばならないと考えているのを読んだとき、私は、カネさえあればどんなものでも買える、地球の生命でも買えることが、本当によくわかった。ヨーロッパ人民党は、ワシントンのプロパガンダのために発言していたのであって、ヨーロッパのためではなかった。万一、ヨーロッパがロシアと核戦争をすれば、すべてのヨーロッパの首都が破壊されて、すぐにも終わるであろう。

ヨーロッパ人民党の狂った副総裁 **Jacek Saryusz-Wolsi** が、「ロシアとの話し合いと説得の時は過ぎた。今は容赦ない策に出るべき時だ」と宣言したとき、彼はどちらが本当の侵略者であるかを明らかにしていた。

間違いなく、ヨーロッパ議会は、地上の生命にとって大きな危険である。ロシアはいずれ身を落として、ワシントンの妾になるだろうと考えるのは、現実的ではない。